



事務所ニュース

JICA-UNICEF連携で スーダン国「小児感染症予防計画」!

11月10日、連邦保健省にて、和田日本国大使、ニールスUNICEFスーダン代表、尖戸JICAスーダン事務所長及びアブダラ連邦保健大臣同席の下、無償資金協力「小児感染症予防計画」の交換公文及び贈与契約締結のための式典が行われました。贈与契約額8.7億円の上記プロジェクトは、主に小児感染症予防対策の活動に利用される予定ですが、その一部の資金で、JICAはUNICEFと連携し、「ダルフル及び暫定統治三地域人材育成プロジェクト」を通じてこれら5州における村落助産師の現任研修活動を実施する予定です。

本連携事業では、セナール州で実施中の「フロントライン母子保健強化プロジェクト」(通称マザーナイル・プロジェクト)で確立された村落助産師エンパワーメント・モデル(セナール・モデル)の全国展開を目指しています。



カッサラ州基本行政サービス向上による復興支援プロジェクト、準備フェーズ始動!

11月1日、連邦政府でのインセプションミーティングを封切りに、準備フェーズが動き出しました。スーダン東部・カッサラ州における5セクター(財務、給水、母子保健、職業訓練、農業+生計向上)への復興支援という、同州全体の行政サービスの改善を目指すプロジェクト。2011年3月までの5ヶ月の準備フェーズでは、計9名の専門家が調査に携わります。

南部スーダン メディア啓発ワークショップを開催!

11月23日、南部・ジュバで情報省職員やジャーナリストを対象とした啓発ワークショップを開催しました。住民投票に向けたメディア報道の在り方や、平和構築におけるメディアの役割についてプレゼンテーションが実施された後、参加者を交えたディスカッションが行われました。地方都市からのジャーナリストも含め50名を越える参加者が集まり、JICA側からは橋本国際協力専門員や植田元NHK解説員、スーダン側からもハルツーム・モニターのコラムニストや情報省の課長が講師として参加し、「南部スーダンで報道の自由はあるか」等について、白熱したディスカッションが繰り広げられました。スーダン全体の平和と安定のためにもメディアの果たす役割は重要であり、2011年以降はJICAはメディアに対する技術的な支援及び地方でのWSの開催等を検討しています。



南部スーダン 水道プロジェクト開始!

11月中旬から「南部スーダン都市水道公社水道事業管理能力強化プロジェクト」がスタートしました。これから3年間に渡り、ジュバ市水道公社の浄水場及び送配水管の維持管理、水質向上、料金徴収システムの検討、水道公社本部と支部との連携への支援を行います。この技術協力は、現在調査中であり約35万人に裨益する無償事業「ジュバ市水供給改善計画」を価値あるものにする為にも欠かせないプロジェクトです。すでに7人の専門家がジュバ入りし、水道公社内に設けられたプロジェクト事務所で活動を開始しています。

— いろいろなプロジェクトの専門家の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー —

北部6回目は、「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクトの中垣 専門家です。

若手の高い向上心に期待

「農業再活性化計画」実施能力強化プロジェクト

チーフアドバイザー 中垣 長睦

当プロジェクトは以下の3本柱から成り立っています。そして協力期間は2010年3月から2014年3月までとなっており、今は初年度の活動実施中です。

①農業本省の人材育成と組織強化、②スーダンにおける米生産国家戦略策定協力、稲作技術開発、③カッサラ州の農牧業開発アクションプラン策定

相手側実施機関は連邦農業省ですが、実際のプロジェクト活動サイトが上記②では白ナイル州とゲジラ州、③ではカッサラ州となっており、4つの州にまたがっての活動展開となっています。



(上)稲作TOTの様子
(下)キャパシティ・アセスメントの様子



白ナイル州では5フェッタン〈2ヘクタール〉のデモンストレーション圃場を2箇所、ゲジラ州では5フェッタンを3箇所設け、稲作の後藤専門家が各州の関係者と共に栽培試験を行っています。特徴は、試験場で行う試験とは異なり、デモンストレーションで行っている結果が農家にすぐに適用できるように配慮している点にあります。

農民はく政府関係者も同じですがくコットン、ソルガム、ミレット、ゴマ、落花生などの伝統作物の栽培では思うように収量、収益が上がらないので、必死でこれらの伝統作物に変わる代替作物をもとめています。そしてこれらに代わるキャッシュクロープとして稲くそれも陸稲くに熱い視線を注いでいます。

また、政府のおこなっているデモンストレーション兼用の種子圃場への技術アドバイスも行っています。

農業本省の人材育成と組織強化

人材育成・組織能力の強化対象は、今年度は5部局です。これらの対象部局の職員を対象に、石垣専門家が、ワークショップを開催しニーズアセスメントを行いました。これは各部局の業務マニフェストと現

実の業務活動のギャップを把握し研修課題を見つけるためです。

このようにして抽出された課題を集約して研修課題とし具体的な研修計画を策定していきました。研修の実施に当っては個々人の現在の能力評価を行って、ニーズとレベルに応じた研修を実施しています。抽出された研修課題の中には、英語、IT、PCM、リーダーシップ、マネージメントなどがあります。この国の教育方針でアラビア語化を進めた結果、英語の出来ない若い人が圧倒的に多くなった反面、仕事上の英語ニーズは一層高まってきているという皮肉な現象とも言えるでしょう。



PCM研修の風景

若い人だけではなく、幹部く部課長クラスくのワーキンググループを組織し、この人達をも対象にワークショップを開催しています。これらの中から得られたことは、若い人達が思いの外、非常に向上心が高いということです。このような事実を今後の研修に役立てて行きたいと考えています。

中垣 長睦

／なかがき おさむ

「農業再活性化」実施能力強化プロジェクトチーフ・アドバイザー



11月10～12日にかけてケニアのナイロビで開催されたアフリカ稲作専門家会議に参加し、益々スーダンの「米生産国家戦略」策定協力を燃えています。



収穫祭で圃場の説明をするC/P

スーダンにおける米く陸稲く生産の推進

米はスーダンの農作物の中で、小麦について第2の戦略作物と位置づけられています。この国では米の消費が約6.3万トンとされており、この内約4万トンを輸入に頼っています。政府は米の輸入を満ちし、さらに輸出をしていきたいとの考えをもっています。このような政府の考えに沿って、当プロジェクトでは米生産推進のための国家米生産戦略策定に協力すると共に、陸稲栽培技術開発を白ナイル州とゲジラ州で行っています。



収穫祭式典での大使挨拶



— いろいろなプロジェクトの専門家の方々から、スーダンで活動する中で感じるさまざまな思いや発見などを綴っていただくコーナー —

南部3回目は、南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクトの笠原 専門家です。

サイクルを回して…

南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト

笠原 光

プロジェクト目標を「保健省及び州保健局の能力強化を通じ、保健人材育成を促進する」に掲げた本プロジェクトも、折り返し地点を過ぎました。プロジェクト開始時には距離があった保健省や州保健局人材課スタッフも、近頃では「JICAは僕たちの声をきちんと聞いてくれて、一緒に考えてくれる。JICAは『ドナー』じゃなくて『友人』だ」と、嬉しいことを言ってくれるようになりました。



基本的な事務機材もない、スタッフの数も足りない、省庁で働いた経験もない、お給料も遅延つづき、たくさんのドナーが行っている支援の動向もうまく把握できていない、といった環境で働く保健省や州保健局のスタッフは大変だろうな、と同情しつつも、プロジェクト目標と南部スーダンの保健セクターの持続可能性を考えると、心を鬼にして彼らに接しなければなりません。特にジュバの保健省人材課はプロジェクトの直接のカウンターパートでもあり事務所も近いので、一日に何度も足を運んで「今月の課内会合はちゃんとやりましたか？」「この間の報告書は課内で共有しましたか？」「次のワークショップの責任者は課内で相談して決めましたか？」など(たいていの返事は「やっていない」とか「まだ」ですが)、最近では「まだだけど、今週中には何とかしたいと思っている」など、言い回しに多少の前進が見られます)と、とにかく「課として動く」ということを繰り返し確認します。

プロジェクトの最終年にあたる来年は、保健省と州保健局が自分たちの力で助産師の指導者研修を実施するという大きな活動があります。この下準備として、今年、研修運営を「計画・実施・評価」という一連のサイクルに沿って理解する研修サイクルマネジメントの手法導入ワークショップを保健省人材課と州保健局人材課や研修担当スタッフに対して行いました。



この手法を使って、まずは保健省人材課が看護局と共催で助産師指導者研修を実施しました。研修計画作り、準備会合、当日の運営や実施後のレビュー等、彼らにとっては慣れない作業ばかりで苦勞していたようですが、これまでプロジェクトを通じて少しずつ培ってきたチームワークで互いの足りないところを自発的に補い合う姿も見られ、良い滑り出しとなりました。

研修サイクルマネジメントの核は、研修実施後に何が良くできたか、何が不足していたかを研修実施者がみんなで一緒に確認し、次の研修に活かすということを繰り返すことで研修管理能力を向上させていくという点にあります。この作業を繰り返す過程では、時にスタッフの忍耐力が続かなくなることもあり、まだまだ先は長そうです。彼らが、このサイクルを自分たちでぐるぐると回して南部スーダンの保健人材育成を担えるようになる日が来るといふ、と願いつつも、「南部スーダンでこのサイクルを回すってやっぱり大変よね…」と相変わらず彼らに同情もしている毎日です。



笠原 光 / かさはら ひかる

南部スーダン戦略的保健人材育成プロジェクト

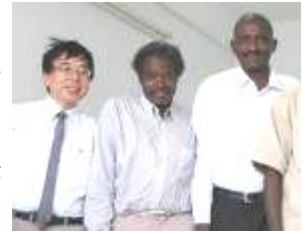
2009年から本プロジェクトに関わる。パラダイスホテルバレー部二代目キャプテンではあるようだが、最近、部のレベルが上がり練習が厳しくなったため、見学にまわる時間が大幅に増えている。



着任 挨拶

石井 明男 専門家〔廃棄物管理・環境森林都市開発省〕

11月21日に廃棄物処理の専門家として着任しました。今回を含めて3回こちらにお世話になります。アフリカは初めてなので不安でしたが、環境省に来てみて話をしているうちに不安が消えて、少し自信のようなものも湧いてきました。好きな専門家業務がこのスーダンでできるので内心喜んでます。いろいろご迷惑をおかけすることになるかと思いますが宜しくお願いします。



植松 政郎 専門家〔水供給人材育成計画プロジェクト・データ管理/GIS〕

2008年6月～2010年11月まで水供給人材育成計画プロジェクトでデータ管理/GISを担当させていただき、この度約2年半、計10.5ヶ月のアサインを終了し、離任いたします。現地滞在中は、JICA関係者の方々の多大な支援により、充実した、かつ気持ちよく業務を行えたことを心から感謝します。今後また機会があれば、一緒に仕事が出来ればと思っています。皆様におかれましても健康と安全に留意し、御活躍されることを願っています。ありがとうございます。

山本 誠 専門家〔水供給人材育成計画プロジェクト・管網管理〕

水供給人材育成計画プロジェクトで、PWCTの管網管理研修実施能力向上のための業務を行いました。この度、全2回の管網管理研修を終え、離任いたします。今年の6月から合計約3ヶ月半という短い期間ではありましたが、温かいスーダンの人々に囲まれ、またJICA関係者の方々のサポートに助けられ、充実した現地業務を行うことができました。また機会があれば、スーダンの業務に携わることができればと思っております。皆様、大変ありがとうございました。

離任 挨拶

2010年を振り返って・・・

行く年2010年は皆様にとってどのような年であったでしょうか？スーダンにとっては、

何といっても4月の総選挙、6月の新政権発足、そしてリファレンダムに向けた準備とCPA終盤の激動期だったかと思えます。ダルフルルについては、色々な調停の動きはありましたが、まだ全面的な解決には到りませんでした。

その中でJICAスーダンは、皆様のお陰をもちまして、北部スーダンでは、①ダルフルルや暫定統治3地域への本格支援開始(TOT、機材供与、パイロット事業開始)、②カッサラ復興支援プロジェクトの準備フェイズ開始、③農業分野での技術協力プロジェクト2件開始(農業再活性化、ストライガ研究)、④新しい取り組み(結核、環境など)、⑤一般無償資金協力2件(カッサラ給水、農業灌漑)の調査開始など、ほぼ事業量が倍増しました。

南部スーダンでも、①一般無償資金協力案件の調査開始(ジュバ給水施設拡充、ジュバ河川港拡充、新ナイル橋建設など大型案件)と、これらに関連した水道施設や河川港の運営改善の技術協力プロジェクト開始(準備)するなど、事業拡大することができました。

来年2011年は、1月から南部独立を問う住民投票が行なわれ、ご存知のように、7月に南部スーダンは独立すると言う見方が強まっています。JICAスーダンは、住民投票の結果に関わらずスーダン全体の人々が平和の恩恵を受けられるように努力してまいりたいと思います。

来年もよろしく願っています。良いお年をお迎えください。

JICAスーダン事務所長 兵戸 健一



12月の予定

調	(北部)	～12月23日	「カッサラ市給水施設改善計画」準備調査
査	(南部)	12月4日～12日	「ジュバ市水供給改善計画」概要設計説明調査
団		12月13日～19日	「ジュバ河川港拡充計画」概要設計説明調査

My Favorite

朝ごはん♪

木村 亮一 隊員(青年海外協力隊・自動車整備)

朝食は毎日「フル」と呼ばれる料理を同僚と一緒に食べています。豆を煮込んでドロドロにしたものを塩や香辛料で味付けし、トマト、玉ねぎ、ターミーヤ(穀物コロッケ)、チーズ、ごま油等をトッピングしたものです。これをパンですくってみんなで食べます。お好みで唐辛子ソースも有、でも激辛です。



そして毎日参加人数が決まっていないので足りなくなる事も、そんな時は残り少なくなったフルにパンをちぎって投入、スープを注ぎ「ファッタ」という別の料理になります。日本の鍋料理にご飯を入れて雑炊にするような感じでしょうか？

フルもファッタも正直見た目はあまりよろしくありませんが、スーダンのパンとの絶妙な組み合わせのおかげか毎日食べても飽きない不思議な美味しさがあります。



～広報よりお知らせ～

JICAスーダンでは、事務所広報写真の充実化を図るため、12月にフォトコンテストを実施します。皆さんのBest of the bestの写真を奮ってご応募ください！！→詳しくはJICAスーダンMLでお知らせします

編集後記

2010年も師走を迎えました。皆様はどんな1年を振り返っていますか？ニュースレター、1月号もお楽しみに！

発行：広報担当